

チャレンジ通信

埼玉県議会自由民主党議員団

なかやしき 慎一

討論資料



発行者
県議会議員 中屋敷慎一
〒365-0039
鴻巣市東3-11-18-103
TEL 048-541-8110
FAX 048-541-0256



新春を迎え

皆様にはお健やかに新年をお迎えになられましたこと心よりお喜び申し上げます。

いよいよ今年も「2020東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。同大会を通して未来へのレガシー(有形・無形の遺産)を創出し、世界へ誇る埼玉県の魅力を発信することが重要です。そして、そのためには、成長戦略を果敢に押し進める力が求められています。

一方、昨年は台風19号による被災など、自然の厳しさを改めて実感した年でした。県議会では10月31日に臨時議会を開催し、中小企業や農家を支援するための融資枠等の拡大等を決めたほか、12月定例会では過去最大規模となる災害復旧予算の計上などを決めました。

本年も愛する故郷埼玉・鴻巣市の発展のため、県政に全力で取り組んで参ります。皆さまのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

埼玉県議会議員
中屋敷 慎一

睦月に思う

12年に一度の亥年の選挙イヤーも何とか乗り切り、令和という新しい時代も2年を迎えることが出来ました。本県も新しく大野知事を迎え、県議会も9月・12月と2回の定例会を過ぎています。令和2年度の予算編成方針も明らかとなり、2月定例会ではこれから示される令和2年度予算(案)について種々活発な議論がなされるものと思えます。残念ながら今年度は、予算特別委員ではないので、議論の現場には参画できませんが、自民党県議団の一員として、しっかりとコミットしていくつもりです。また現在、24日まで自民党県議団のプロジェクトチームで検討を重ねてきた、「県ケアラー支援条例」と「県受動喫煙防止条例」の骨子案を、自民党埼玉県連ホームページで公表していますので、ご意見をお寄せいただければ幸いです。新年を迎え、私もスタートダッシュで取り組んでまいります。

県議会12月定例会報告 災害復旧予算 過去最大規模

約246億1,474万円などを議決!!

県議会12月定例会は12月2日に開会し、一般会計補正予算約231億3,976万円などを議決し、12月20日に閉会しました。一般会計補正予算の内訳は、台風19号で被災した中小企業や農家、社会福祉施設などの支援に約42億円、河川や道路などに約78億円、農地や林道など農林関係に約53億円を計上。特別会計を含めると、災害復旧予算は約246億1,474万円となり、平成26年2月の大雪災害復旧予算に匹敵する最大規模となりました。

また、「2020東京オリンピック・パラリンピック」に地元の小中高生を招待するためのチケット購入費、約9万9千枚分の2億円余りも盛り込まれています。

台風第19号被害に係る対応状況

(1) 災害救助事業等の執行

- ①住宅の応急修理
- ②応急仮設住宅の供与
- ③生活必需品の給与、避難所の設置等
- ④被災者生活再建支援金の支給 など

(被災者の生活・生業の再建に向けた対策パッケージ)

(3) 既定予算を活用した応急対応

- ①土砂撤去や決壊箇所の応急復旧工事
- ②路肩崩落拡大防止の応急対応工事
- ③被害地域における感染症予防

(4) 10月臨時議会補正予算の対応

- ①中小企業制度融資 → 11月8日(金)から受付を開始
- ②農業近代化資金 → 10月31日(木)から融資枠を拡大

(2) 県税及び使用料・手数料の減免など

- ①個人事業税、不動産取得税の減免等
(納期限の延長3年、徴収の猶予1件)
- ②各種証明書など発行手数料等の減免(97項目)

【応急復旧工事例】新江川(東松山市古凍地区)



被災時

応急復旧時

台風第19号関連補正予算の概要

1 予算額 246億1,474万4千円

2 一般会計分【231億3,976万7千円】

◆被害を受けた中小企業等への支援【42億4,537万6千円】

- ①中小企業等の施設・設備等に対する支援
- ②農業用機械の修繕等に対する支援
- ③旅行・宿泊料金の割引支援
- ④社会福祉施設の復旧支援
- ⑤肥料の購入等に対する支援

◆公共施設等の災害復旧【189億3,523万1千円】

- ①道路、河川、砂防施設、公園
- ②農業用施設、森林管理道等
- ③交通安全施設、社会教育施設等

※繰越明許費の設定【103億7,969億3千円】

年度内完了が困難な工事について

繰越明許費を設定

3 特別会計分【14億7,497万7千円】

◆災害救助事業特別会計【12億5,060万円】

災害救助法に基づく被災住宅応急修理経費負担

◆県営住宅事業特別会計【2億2,437万7千円】

床上浸水の被害を受けた県営坂戸東坂戸住宅における復旧工事

※下線部は「被災者の生活・生業の再建に向けた対策パッケージ」を活用した国庫補助事業

台風第19号被害に係る補正予算(鴻巣市)

補正予算の説明に入る前に、県では、平成31年(令和1年)度当初予算で、国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」予算を活用して、元荒川、野通川、赤堀川など県管理河川における樹木伐採・土砂撤去などの事業を計画し、農業における渇水期(概ね11月以降)に実施する方針で臨んでいました。現在鴻巣市内でも事業が進められており、常光地域では、流域断面の樹木伐採が整いました。また、この予算では、今回複数箇所でも溢水した元荒川の安養寺堰より下流部の土砂撤去、いわゆる浚渫も行うこととなっています。これにより、元荒川の下流への流量は担保され、水害への対応能力は大きく向上します。

さて、台風19号に係る補正予算ですが、やはり溢水をおこした、安養寺堰よりも下流部、約5.8kmの区間において、堤防のかさ上げなどを実施する方向で、北本県土整備事務所が、どの場所のかさ上げを実施すれば、最大の効果をえられるかを念頭に検討を進めています。私も、限られた予算の中で、「最大の効果」を上げられるようにチェックしてまいります。

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」(鴻巣市常光・四郎兵衛橋上流側)



施工前

施工後

**12月12日
一般質問・答弁要旨**

8項目質問させていただきました。その中から鴻巣市に関する項目などをピックアップし報告させていただきます。



中屋敷 慎一氏
(自民、鴻巣市)

【質問】災害時行動計画のタイムラインは、災害対応に従事する関係者が「いつ」「誰か」「何をするか」を時間軸に沿って整理してあらかじめ留意し、災害発生時に連携の取れた対応をするために文書化したもの。台風の前線がおおむね定まった状況から上陸までに時間的余裕があることから、「自助」に厚みを持たせられる可能性が高くなる。

県民個々が自らの行動指針となるマイ・タイムラインを備えることが必要と考える。仮称「埼玉・マイ・タイムライン」を作成し、組織率90%を超える自主防



事前計画で防災意識向上

【森尾危機管理防災部長】マイ・タイムラインは、災害時の判断をサポートするツールとして役立つとともに、作成を通じて地域のリスクを改めて考えるきっかけになるなど、防災意識を高める効果も期待できる。今後、県民が手軽に活用できるようにマイ・タイムラインを作成し、普及に取り組む。

例えば、県が講師を派遣する自主防災組織の講座にテーマとして取り入れたり、防災イベントなどで広くPRしていき、「ななえ」においても、親子で学べるイベントの定期的な実施なども検討していく。

【森尾危機管理防災部長】マイ・タイムラインは、災害時の判断をサポートするツールとして役立つとともに、作成を通じて地域のリスクを改めて考えるきっかけになるなど、防災意識を高める効果も期待できる。今後、県民が手軽に活用できるようにマイ・タイムラインを作成し、普及に取り組む。

令和元年12月13日（金）埼玉新聞記事

Q ラグビーワールドカップの経験をオリンピック・パラリンピックに生かそう！

今年開かれるオリンピック・パラリンピックで、ラグビーワールドカップ熊谷大会で培ったノウハウを、どのように生かし、ホスピタリティの高さを示していくのか伺う。

A 小島県民生活部長
ラグビーワールドカップ2019熊谷大会では、大会直前の日本代表壮行試合を含め4試合で約9万4千人の方が来場し、世界最高峰のプレーを楽しんでいただきました。1,300人のボランティアを始め、市民全体が一体感を持って来場者をお迎えしたことが、世界の称賛する「おもてなし」になったと考えています。オリンピック・パラリンピックの国内外からの大勢の観戦客にホスピタリティの最前線で活躍されるのは、5,400人の都市ボランティアの皆さんです。現在、ラグビーワールドカップで活躍したボランティアから、その経験やノウハウを伝え聞く研修や各種競技会場への案内、県内観光地のPRなどの研修を実施しています。今後も、本県のホスピタリティを高められるようしっかり取り組んでまいります。



Q ものづくり人材の更なる育成について！

3年間の「ものづくりトップレベル技能者育成訓練事業」の成果を踏まえ、さらにブラッシュアップした形でものづくり人材の育成事業を展開していく必要があると考えるが、産業労働部長の所見を伺う。

A 加藤産業労働部長
本県のものづくり産業の発展の為には、次世代を担う若手技能者を増やしていくと共に、若い人たちの目標となるトップレベルの技能者の育成を進めていくことが必要です。私も、「技能五輪全国大会」の視察から、若手技能者が全国レベルの競技大会で活躍するには、そうした大会で入賞経験のある指導者に的を射た指導をしていただくことが不可欠と実感しました。今後も、トップレベルの技能者育成に向け、若手技能者が「技能グランプリ」などの入賞経験者から直接指導を受けられる体制づくりなどを進めるため、優秀技能者が数多く所属する埼玉県技能士会連合会と連携して、しっかりと取り組んでまいります。



Q コウノトリも生きられる環境を未来へとつなごう！

大野知事が推進されようとしているSDGsの理念に基づき、コウノトリも生きられる環境づくりに向けて埼玉県が関東広域の旗頭になるほどの意気込みで取り組むべきと考えるがいかがか。

A 小池環境部長
県として、鴻巣市が令和3年度に予定しているコウノトリの飼育開始に向けて、関係機関との具体的な協議を行うほか、その後の繁殖、放鳥など、各ステージにおいても、鴻巣市とともに取り組みを進めてまいります。コウノトリは、水辺生態系ピラミッドの頂点に位置し、自然界で生きていくにはそのエサとなるたくさんの生き物が育まれる豊かな自然環境が必要です。こうした自然環境は、私達人間が豊かに暮らしていくうえでも欠かせないものであり、その実現に向けた取り組みは、まさにSDGsの達成につながるものと考えます。今後も、市町村や保護団体などと協力し、コウノトリを始め多様な生物が生息・生育できる環境づくりに取り組めます。



Q 県道鴻巣桶川さいたま線の鴻神社前交差点の整備の見通しについて！

A 中村県土整備部長
県では、鴻神社前交差点の交通渋滞の対策として、県道鴻巣桶川さいたま線に右折帯を設置する交差点整備を進めています。これまでに、整備に必要な路線測量や道路詳細設計が完了し、現在、用地測量を実施しています。

今後の見通しについてでございますが、令和2年度から順次、物件調査を実施し、用地取得に着手してまいります。引き続き、地元鴻巣市と連携し、事業推進に取り組めます。

Q 県道行田蓮田線郷地橋交差点と歩道の整備、進捗状況と今後の見通しについて！

A
渋滞解消と歩行者の安全を確保するため、郷地橋交差点の整備と交差点を含む690mの区間で歩道整備を行っています。平成29年度に地元説明会を行い、平成30年度から用地取得に着手し、現在の用地買収率は8%となっております。令和元年度は引き続き、用地取得を進めるとともに、本格的な工事に着手できるまでの間、御協力いただいた箇所を有効に活用し、歩行者の安全対策を図る暫定的な利用方法を検討してまいります。

